

教えるという話があった。地域の方が学校に出向き、溶け込んで指導に当たること
が、伝統、文化を引き継ぐ一番の方法ではないかと思う。ここ最近の出来事でいろ
いろなことを感じた。要所要所で一つ一つに力を入れていかなければならないと思
う。

基本目標2「学校、家庭、地域が一体となった教育の実現」の中にある「地域連
携担当教職員」が、令和元年度に県内全公立学校で任命されたが、1年ではその成
果が出ないと思う。これについては、教育現場だけでなく、行政も携わらなければ
いけない。以前、この会議でも発言したが、ある方から「学校でこのようなことを
教えたいが、どこに相談すればよいのか」という相談を受けた時に、市の教育委員
会か市役所が窓口になるのではないかと答えたが、その時はまだこの制度が出来て
いなかった。このような制度があることをもっと広報していただきたい。

【教育委員】

今回で5回目の総合教育会議出席となるが、1回目は、頑張る学校応援プランの
関係で、教員の多忙化問題や授業スタッフの問題、また、高校改革の関係では、私
がいわきアカデミー推進協議会の会長であることから、その紹介をさせていただ
いた。2回目は平成30年度の第1回の会議で、その時は、福島ならではの特色ある
教育について議論があり、私からは、地域連携担当教職員設置の実効性に関する要
望・意見を述べるとともに、新井紀子先生が監修したリーディングスキルテストの
有効性と予算措置の要望をした。3回目は、県立高等学校の魅力化について、全教
科にわたってアクティブラーニングといった授業をやっていくべきではないかと
いう提案をさせていただいた。また、先生方の教育という観点で、すべての教員
の方にアクティブラーニングの研修機会を与えるため、先生向けのDVDを作り、ア
クティブラーニングの要点を知っていただくことも必要であると思う。時間節約の
観点と経費の面からも、そのような取組をしてはどうかという意見を述べた。

平成25年3月に作成した第6次福島県総合教育計画はスタートから7年が経
過し、この間、福島県は様々な環境の変遷を経ながら今日に至っている。特に、本
県における国家プロジェクトである「福島イノベーション・コースト構想」の実現
に向けた人材育成等についても議論し、構想が進捗している。そのような流れの中
で、次期総合計画の策定が今日のテーマとなっており、先ほど、次期教育総合計画
検討の基本的な考え方と留意すべき視点等について説明があった。特に、SDGs
については「等しく質の高い教育を与えよ」という目標を国が掲げており、それに
沿った目標の設定が必要である。また、SOCIETY5.0については、膨大な
ビッグデータを、人間の能力を超えたいわゆるAIで人工知能解析し、ロボットを
通して人間にフィードバックするといった、これまで想像もできなかった新たな価
値が、産業や社会にもたらされる時代が既にやってきている。こうした状況を加味
し、私は次期計画の基本的な考え方に賛同する。

2点お話しする。どの項目も継続する項目で重要だが、特に「AI社会の到来」に
ついて、この技術革新は、我々の想像をはるかに超えたスピードで進化している状
況。AI社会に対応するためにも、施策6「高度情報化社会を主体的に生きていく
力をはぐくみます」の課題にある「本県教育のICT環境の整備」を是非進めてい
ただきたい。それから施策3の「子どもたちの生き抜く力を支える「確かな学力」
を身につけさせます」について、残念ながらKPIを下回っている状況。ただし、

経年で学力の伸びを把握する体制が出来、学力のつまずきの原因なども把握できるので、それに対応する指導体制の改善あるいはフォローに努めていただきたい。

【教育委員】

私からは、2点お話しする。

少し抽象論になるが、大震災で大変な思いをしている福島県の子どもたちが、福島県で教育を受けて、これから例えば進学・就職で東京に出ていった時に、「自分は福島県出身である」と堂々とPRできるような教育をしていただきたい。福島は、フルーツ王国であったり、日本酒が有名であったり、もちろん、文化的、歴史的遺産があり、今、旬な古関裕而先生の出身地である。そのようなすばらしい古里の魅力を子どもたちに教え、気付いてもらい、それを堂々と外で発信できるような教育を実現していただきたいと考える。私は只見町出身だが、冬期間は中通りと違って滅多に太陽も出なくて、子どもの頃は、雪ばかり降って本当に嫌な所に生まれたと思っていた。只見線の復活には知事に大変な御尽力を頂き、一町民、出身者としても感謝申し上げる。JR東日本の力もあると思うが、只見川の第一橋梁の風景写真が台北の巨大な駅舎の中に掲げられていた。京都、奈良ではなくて、雪ばかり降って何もない只見町、私が子どもの頃に嫌だなと思っていたところが、外国人観光客が訪れるような場所になっている。視点を変えれば大変すばらしい資源が溢れている訳で、我々大人もその資源に気付いていなかったということになる。そのような福島の魅力を子どもたちに気付いてもらい、東京に出て行った時には、福島出身で、果物や日本酒が日本一うまいと（アピールしてほしい）。日本酒が日本一になるためには、日本酒を造っている方たちが日本一の努力をされているということなので、その努力を子どもたちに学んでもらうことも必要になると思う。抽象論になるが、背景にそのような大きな取組を取り入れた計画にしていきたいと思う。今まで雪ばかり降って嫌だなと思っていた地域が、実は外の目から見ると東京にはない魅力がある。東京で雪が降っているところは見ないし、沖縄の子どもは雪を見せると喜ぶ。雪が深々と降る静寂はおそらく都会にはない。そのような相対的な目、複眼的なものの見方が出来るようにするため、感受性豊かな子ども時代に海外にどんどん出掛けて欲しい。海外で見聞したことを、日本で振り返って福島県を見つめ直すことによって、今まで気付かなかったことに気付くのではないか。感受性豊かな子どもだけに、むしろ大人より期待できるという思いがある。来年度予算で、高校生を年間100名海外に派遣する事業を実施することは、大変ありがたく、すばらしいことだと思う。

もう一点として、これは基本的に国の課題だと思うが、18歳成人を見越しての学習というものが、どのように計画で反映されるのか。今までの20歳成人の場合、20歳といえば大学生で、ある程度一人暮らしを始めていろいろなことを自分の力でやっていける歳であるが、18歳というのは高校3年で、まだまだ実際の生活は親の庇護の下にある。しかし、一歩外に出ると、我々大人と同様に法的主体として活動していかなければならず、その意味では、法的主体としての被害に遭うかもしれない。学力や体力の向上は当然の前提として、そういった観点を取り入れた教育が国レベルで行われることは当然だと思うが、地方自治のレベルでどのように取り入れていくのかという議論をしていただきたい。

【教育委員】

私からは成果と課題について述べる。

福島県の子どもたちの学力は全国平均を下回っており、調査結果では、授業が分かるという回答した生徒が75.8%と、これも全国平均を下回っている。算数だけの調査結果ではあるが、実に4人に1人が授業が分からないという現状にある。一方で、平日の家庭学習が1時間以上の生徒の割合は全国平均を上回っており、この調査結果から、時間はかけているが、授業が分かる生徒の割合が全国平均まで届かないという状況である。理由としては、やはり読解力不足かと思う。そこで、まず読解力をつけるのにどのような取組がよいかと考えると、読書が一番良いと思う。実際に、朝、読書をする時間を設けている学校も多くあると思うが、それが成果に結びついていない。読書を単純に読み流すだけでなく、読み解く力をどのように身につけていくかが大事になる。これから、「ふくしまの未来を拓く読書の力プロジェクト」が始まるので、そこに力を入れていただくことと、小学校から英語が教科化されることとなり、低学年の内から英語に触れることが出来るように、図書整備やボランティアも含めた環境整備が必要である。子どもたちがもう少し活字に触れて、読解力を高める機会をつくっていく必要がある。英語が小学校で教科化されることもあり、先ほど他の委員もおっしゃっていたが、ICTの整備というのが急務となってくる。どうしてもALTの数が限られているため、英語などで、「聞く」こともそうだが、発音等についてはICTを活用した遠隔授業が必要になってくる。その上で、ICTを活用して授業が出来る教員の育成も必要になってくる。

それから、個人的に懸念しているのが教職員の意識の向上。教員の不祥事があまりにも多く、もっと自覚を持っていただきたいと思う。不祥事が発生した際には、毎回、教員に不祥事案件を説明した上で聞き取り調査を行い、再発防止を求めているが、実際には他人事としてしか受け止めていない。軽率な行動をとることで、自分自身だけでなく、家族や周りの教員、学校等にも迷惑がかかる。アンガーマネジメントではないが、思い止まることが出来るというような研修が必要である。また、実際に処分を受けた教員について、個人情報等の問題もあるので公開されていないと思うが、あくまで協力いただけることを前提として、実際に懲戒免職になった教員については、退職金もなくなり、事件・事故によっては実名が報道されて、その地域に住めなくなってしまうかもしれないということを知らしめることも有効ではないかと思う。そこまで考えて行動を起こしているとは思えないので、何か不祥事を起こしたら、我が身に起きることとして置き換えられるような研修を増やしていただきたい。

【教育委員】

私からは、基本目標2の施策9「地域全体で子どもたちを教え育てる取組を支援します」に関連して、子どもたちのボランティアについてお話ししたい。現在、白河市のコミネスで演奏会などがあつた時に、高校のボランティアクラブの生徒たちがお手伝いをしてきている。ボランティアというと「上から（目線で）何かしてあげる」というように受け止めているので、私はボランティアという言葉が嫌いである。私は、「困っていることがあればお手伝いいたしますよ」という気持ちで取り組んでくれるボランティアを希望している。こんなボランティアをやったらいかがですかという形で、困っている人たちにどんなことをしてあげたらいいのか、どんなことを要求されているのか、ということをも自分たちで考えられるような子ども

を育てていただきたい。例えば、病気で掃除があまり出来ない方や、寒くて犬の散歩が出来ない方に対して、SNSで高校生のコーナーのようなものを作って、「こんなボランティアだったら出来ます」ということを発信する。また、高齢者にSNSなどは出来ないと思うので、「こんなことで困っている」ということを高齢者に代わって書き込んでもらえれば、何かしてあげられるのではないかと思う。例えば、外に出掛けられない方の話し相手になったり、買い物のお手伝いをしたり、そういったこともボランティアになると思う。高齢者に限らず、障がいのある人などが困っている時に、すぐに手助け出来る、すぐ行動出来る子供が育ってくれば良いと思う。上から目線ではないボランティアが出来る子どもを、是非育てていただきたい。

それから、施策の18「地域における身近な文化・スポーツ環境を整備します」にある県主催の声楽アンサンブルコンテストについて、やはり合唱王国ふくしまということで、すばらしい取組だと思う。内容は日本一の取組であり、海外も含め世界一の人たちが来るコンテストを福島で開催出来ることはすばらしいことだと思う。福島県のすばらしさが特段に目立つような質の高いことをやっているということは、学校の先生の質のすばらしさに通じる。それを考えると、今、部活動が学校単位ではなく、地域単位で実施するようになってきている。例えばサッカーのクラブやリトルリーグのような形で部活を行うようになると、私が見る限り、合唱などは学校の先生なくしてはあり得ない状況であり、一般の方々に任せてしまうと、大変申し訳ないが、今の状況は続かないと思う。それだけ福島県の音楽の先生方の指導が、他と比べ物にならないくらいすばらしい。教員の多忙化解消のため、合唱を地域で行うようになると、福島県の良いところが徐々に無くなってしまわないかという懸念を持っている。そこは難しいところだが、福島県の合唱を高めたいと思っている先生方に、これからもがんばっていただきたいという気持ちがある。

施策11に文化財のことが書いてあるが、白河には「まほろん」がある。市内の人は利用するが、すばらしいものを地域だけに止めておくのはもったいないので、他の地域の方にもたくさん見ていただきたい。もちろん、県内の生徒たちは来ていると思うが、もう少したくさんの人に見ていただきたい。また、県の指定文化財である白河ハリストス正教会には、山下りんの絵がある。私は、山下りんの絵を見るために東京の四谷の教会や函館にも行き、すべての絵を見てきたが、白河の絵が一番きれいに残っている。常時公開されている訳ではないが、是非、県民の皆様にご覧になっていただきたい。こんなすばらしいものが白河にもあるということを宣伝させていただいた。

【教育長】

教育は不易と流行と言われ、いつも変わらない部分と、社会や時代に応じて変えていかなければならない部分があるとよく言われる。委員からお話があったように、教員が一人の生徒に向き合って、共感し、指導して、また生徒の方も、先生と出会ったおかげで変わっていく。正に、そこが教育だと思う。そういったものは、時代が変わっても変わらない。一方で、社会の変化や現状の確認によって必要なものが出てくる。資料1には「頑張る学校応援プラン」しか書いていないが、実はこ

れと相前後する形で、高等学校改革のために学校教育審議会を1年余かけて開き、当時、県内の高等学校教育について、有識者の方や各界各層19名の方に議論していただいた。その答申について、平成29年の夏に開催した総合教育会議で報告しているが、改めてそれを見ると、そこに出てくる時代認識というのは、例えば、高齢化、過疎化、原子力災害など、ほとんどがこの資料に反映されていると思う。答申に入っていて計画に入っていないものが、福島県という土地柄、県土が広いことと、地域に多様性があるということ。それから、先ほど委員からお話のあった18歳成人の主権者としての教育、社会に対する当事者意識をきちんと持たせること。おそらく、委員は、消費者としての法的な立場もお話しされたと思う。その答申はあくまでも高等学校をターゲットにしたものなので、今回の成果と課題を振り返ってみると、幼児教育とか生涯学習も今、人生100年時代になってリカレント教育も含めて、どこまで盛り込むのかについても課題として議論しなくてはならないと思う。

また、ほとんど同じ時期になるが、平成29年に「頑張る学校応援プラン」を作成した。位置付けとしては、総合計画の下に「頑張る学校応援プラン」がある。当時、様々なデータを分析して出てきた課題を踏まえた上で、プランを作っていることから、考え方として、あのプランはいかせると思う。そのプランと学校教育審議会の答申を両方見て、まだ書き足りないと思うのは、委員から御指摘いただいた技術革新とAIの進化である。これにより時代が大きく変わり、仕事の在り方から人の暮らしぶり、生活の仕方まで大きく変わろうとしているので、これに対応した教育というのは大事になってくる。また、委員からお話のあった、グローバル化も相通じるSDGs。これは県の総合計画でも取り上げるので、教育においてはますます重要かと思う。

それから、少し個別の話になるが、施策13「地域に根ざした伝統文化を保存・継承し、地域を愛するところをはぐくみます」に文化財の項目がある。当然ながら、保存と継承の話がある。各委員からも文化財の話があった。今、文化財課で、文化財の保存と活用に関する大綱を作成し、パブリックコメントにかけている。これは国（文化庁）も考え方が変わり、保存だけしようと思っても保存していけない現状がある。やはり活用しながら、人々に認識をしてもらい、場合によっては観光と連携することでお金も回るようにしないと、保存も出来ないという時代である。その大綱を、来年度から市町村に作成してもらうような動きになってくる。保存だけではない活用の観点から見直しが必要かと思う。

「頑張る学校応援プラン」にも掲げているが、各委員からも指摘のあった「読解力」については、私も非常に重要だと思う。これは、先ほどのAIとの関係でも大事だと思う。

それから、先ほど委員から、教職員の意識という話があった。私は、教職員にも、子どもたちにも人権教育といったものが大事であると思う。やり方が難しいかもしれないが、やはり人権意識が低すぎると感じている。

また、福島県は、他県も抱える人口減少の加速化、高齢化以外に、原子力災害の被災県であり、地域課題においては課題先進県である。だからこそ、福島らしい教育というものを考える時に、学校だけではなく地域社会と連携して、地域課題に向き合うプロジェクト型学習を促進し、今までのように正解が必ずあるような課題で

はなく、正解が一つに導かれない、どうしたらいいか分からないような課題にも、子どもたちにチャレンジしてもらいたい。もちろん、ICTもフルに活用しながら、課題を解決する力をつけてあげたい。正解がすぐに出てくる課題はAIの方が得意なので、正解がすぐに出ないような課題にチャレンジをすることで、思考力、判断力、人とのコミュニケーション力、それから社会に尽くそうという心、困難にぶつかったときに負けないで頑張りが続けられる力、そういった力をつけてもらいたい。

【知事】

次期教育大綱について、事務局からの説明願う。

－ 政策調査課長から資料2に基づき説明 －

<県立高等学校改革前期実施計画の進捗状況について>

【知事】

次に報告事項に入る。

県立高等学校改革前期実施計画の進捗状況について、県立高校改革室長から説明をお願いする。

－ 県立高校改革室長から資料3について説明 －

<県民の健康づくりについて>

【知事】

次に、保健福祉部で取り組んでいる県民の健康づくりについて、担当課長から説明をお願いする。

－ 健康づくり推進課長から資料4について説明 －

【知事】

今、健康づくりに積極的に取り組んでおり、子どもたち自身が健康であることが何よりも重要。子どもの健康で一番基本となるのは家庭である。家庭で、保護者の方が、子どもの健康と自分の健康も含めて、日々しっかり取り組んでいただくことも非常に重要。教育行政との関わりも強いので、是非、この機会に取組を委員にも知っていただきたい。

以上で、議題は終了した。全体を通して、発言があればお願いする。

【教育委員】

健康づくりの動画には、子どもが入っていなかったなので、映した方が良いと思う。

【知事】

大切な提案を頂いた。参考とさせていただく。

(3) 閉会	事務局（政策調査課長）
--------	-------------